

参考資料

## 2012年度 業績の概要

---

2013年5月20日  
ソニー銀行株式会社

# 損益の状況(1):財務会計ベース

## <連結・単体>

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)

### <連結>

- **連結業務粗利益**

前年度比6億円増加の211億円。  
 主な増加要因は、住宅ローンを中心とした貸出資産の拡大と、スマートリンクネットワークの子会社化(2011年7月)。

- **連結経常利益**

前年度比4億円増加の44億円。

- **連結当期純利益**

前年度比15億円増加の32億円。  
 ソニーバンク証券の譲渡(2012年8月)に伴う税効果により増益。

### <単体>

- **業務粗利益**

前年度比1億円増加の185億円。  
 主な増加要因は、住宅ローンに係る利益の拡大。

- **経常利益**

前年度比2億円増加の42億円。

- **当期純利益**

前年度比14億円減少の8億円。  
 ソニーバンク証券株式の譲渡に係る損失計上により減少。

	<12ヶ月累計>	2011年度	2012年度	前年度比	
連結	業務粗利益	205	211	+6	+3.0%
	経常利益	39	44	+4	+12.4%
	当期純利益	17	32	+15	+87.6%

単体	業務粗利益	183	185	+1	+1.0%
	資金運用収支	161	181	+20	+12.5%
	役務取引等収支	1	1	▲0	▲38.1%
	その他業務収支	20	2	▲17	▲86.2%
	営業経費	138	139	+1	+1.1%
	業務純益	43	45	+1	+4.5%
	経常利益	40	42	+2	+6.2%
	当期純利益	23	8	▲14	▲62.4%

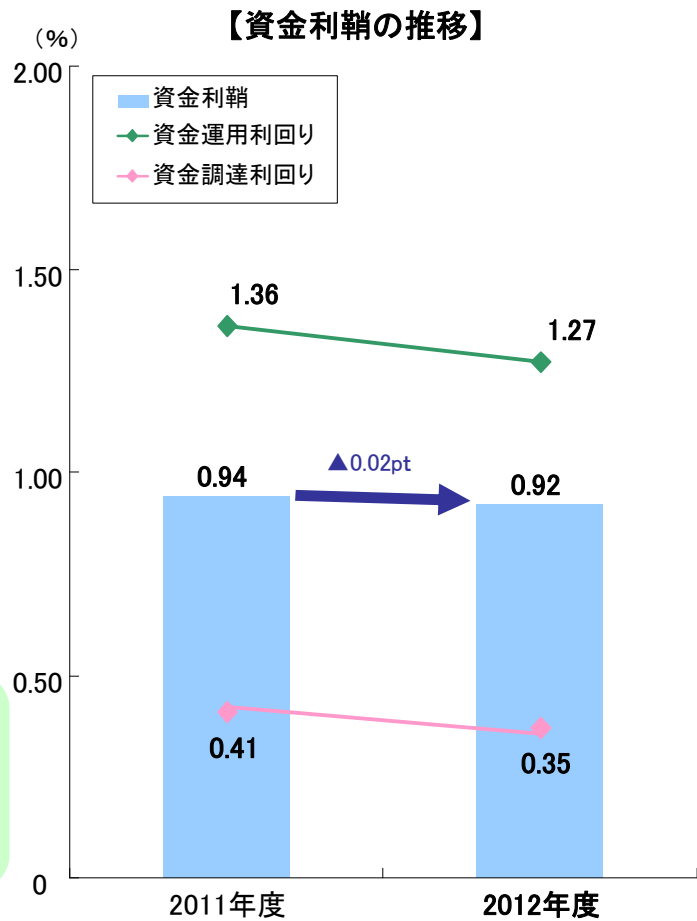
## 損益の状況(2): 社内管理ベース

< 単体 >

- 資金利鞘は前年度とほぼ同水準を維持。
- 資金収支は業容拡大に伴い同6億円増加。手数料等収支は外貨関連取引に係る利益が減少し同1億円減少。

(億円)

<12ヶ月累計>	2011年度	2012年度	前年度比	
業務粗利益	183	185	+1	+1.0%
資金収支*1①	169	176	+6	+4.1%
手数料等収支*2②	11	10	▲1	▲14.2%
その他収支*3	1	▲1	▲3	—
コアベース業務粗利益(A) = ①+②	181	186	+5	+2.9%
営業経費等③	139	139	▲0	▲0.1%
コアベース業務純益 = (A) - ③	41	46	+5	+13.0%



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

※当期より、社内管理ベースの算出方法を一部変更しました。そのため、2011年度につきましても、当期と同様の算出を行った場合の金額を記載しています。

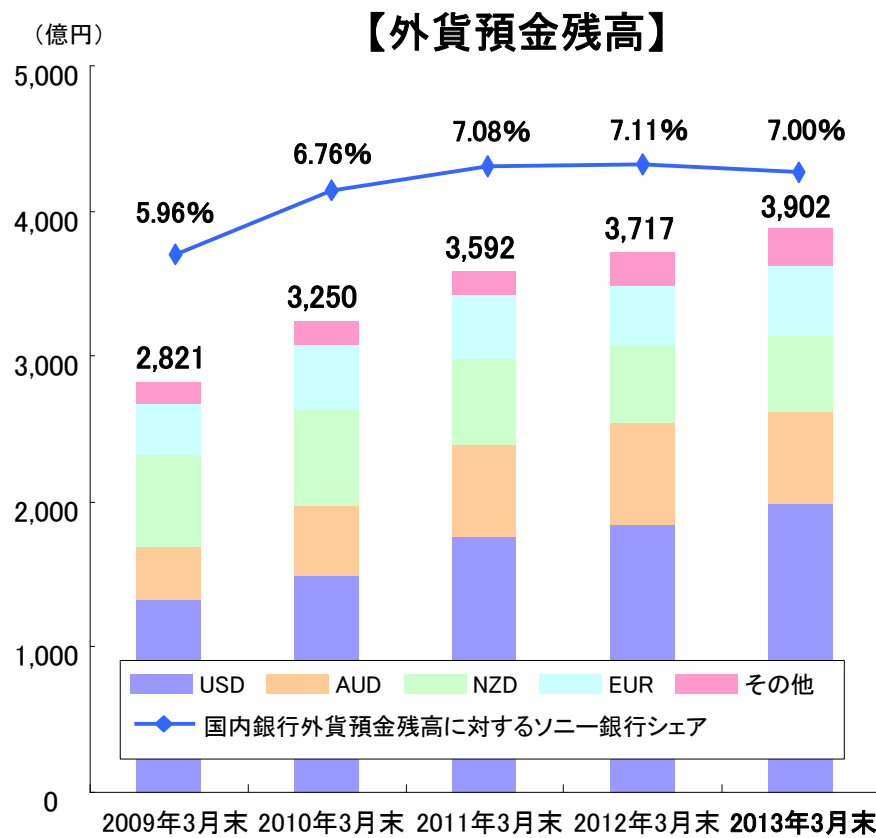
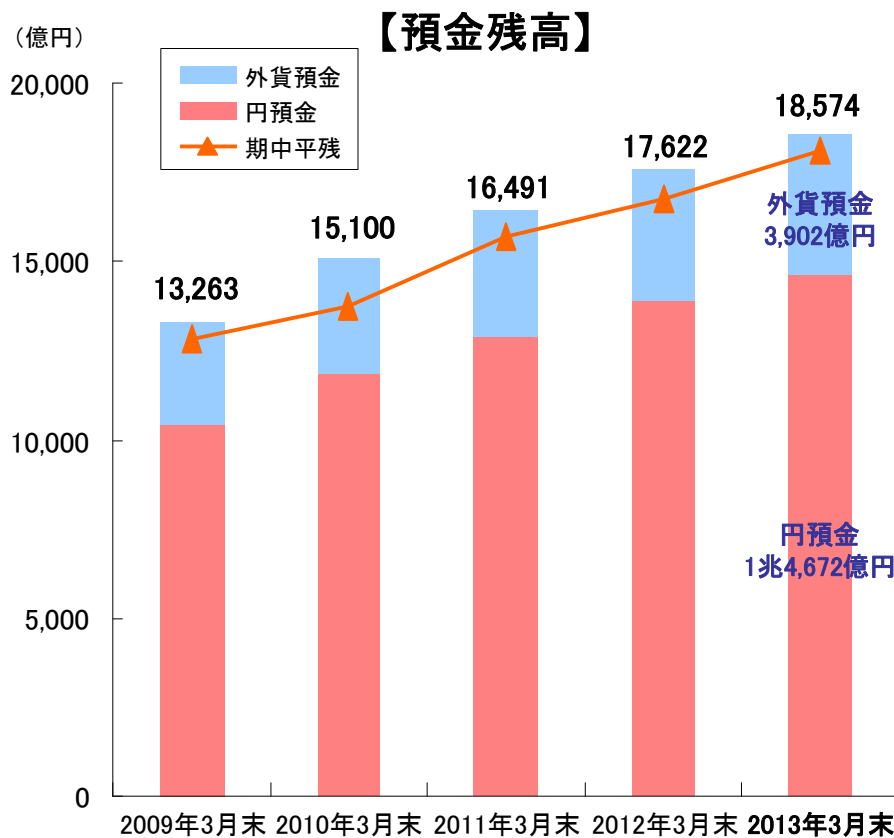
- 社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの
  - \*1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
  - \*2 手数料等収支…役員取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
  - \*3 その他収支…その他業務収支より\*1と\*2の調整を控除したもの。主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益
- コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な利益を表すもの

# 預金の状況

< 単体 >

- 預金は、夏のボーナスシーズン特別企画効果や円安進行に伴う外貨からのシフトもあり円預金が増加し、前年度末比951億円増加の1兆8,574億円。外貨預金は、円換算の影響(+501億円)で同185億円増加の3,902億円。
- 2013年3月末の預かり資産残高(預金+投資信託)は1兆9,743億円。口座数は92万件。

金額は億円未満切捨てで表示



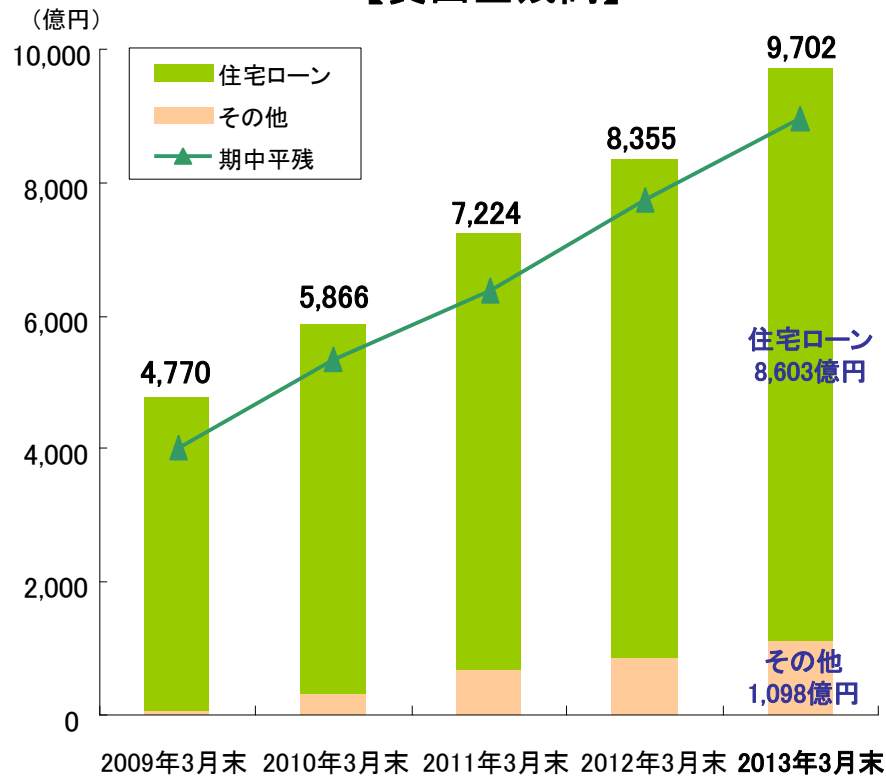
# 貸出金の状況

< 単体 >

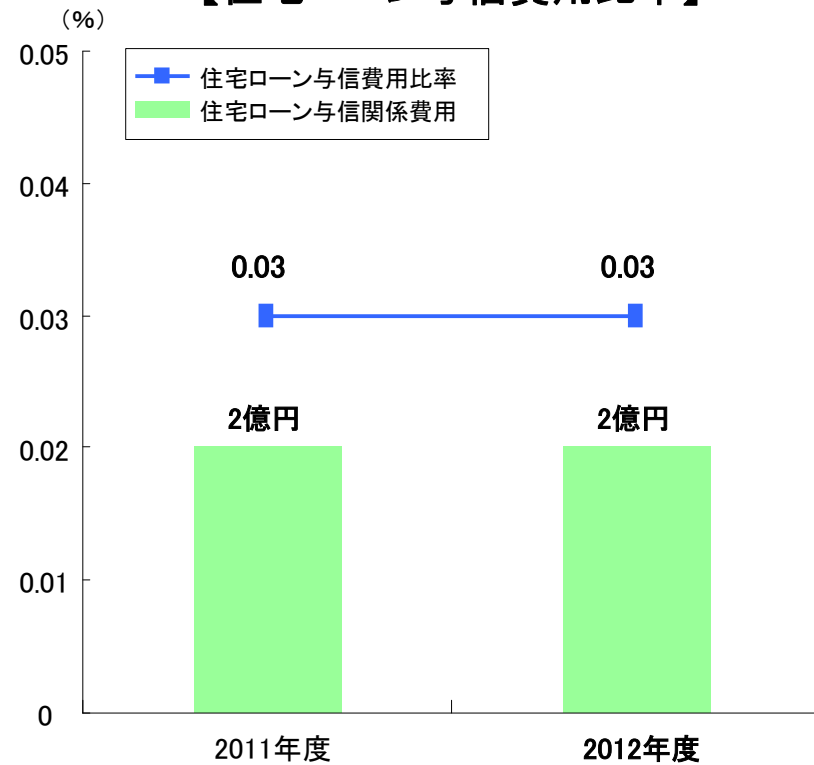
- 貸出金は、住宅ローンを中心に増加し、前年度末比1,346億円増加の9,702億円。
- 住宅ローン与信費用比率は低水準を維持。

金額は億円未満切捨てで表示

【貸出金残高】



【住宅ローン与信費用比率】



※住宅ローン与信費用比率=住宅ローン与信関係費用÷住宅ローン平残  
 ※住宅ローン与信関係費用=貸出金償却(住宅ローン)+貸倒引当金繰入額(住宅ローン)

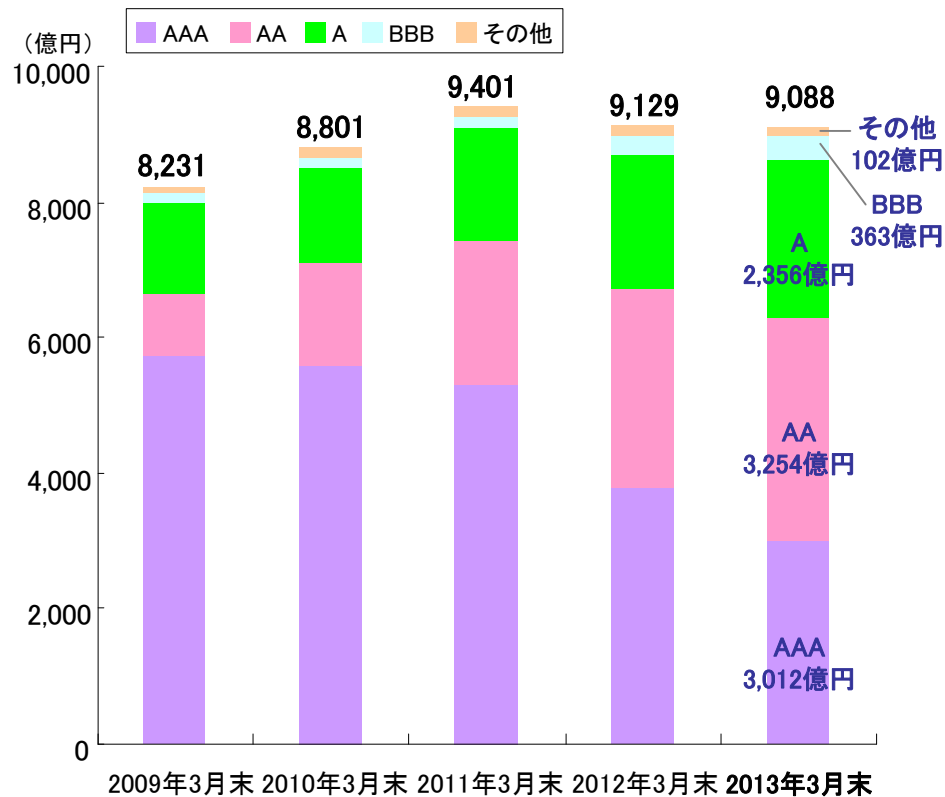
# 有価証券の状況

< 単体 >

- 有価証券は、高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は、前年度末比71億円増加の97億円。

金額は億円未満切捨てで表示

【有価証券残高(格付け別)】



【その他有価証券の内訳】

(億円)

	2012年3月末	2013年3月末
債券	5,079	4,492
国債	1,945	1,860
地方債	291	612
社債	2,842	2,019
その他	3,849	4,491
外国債券	3,764	4,420
その他の証券	85	70
合計	8,929	8,984
< その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前) >	< 26 >	< 97 >

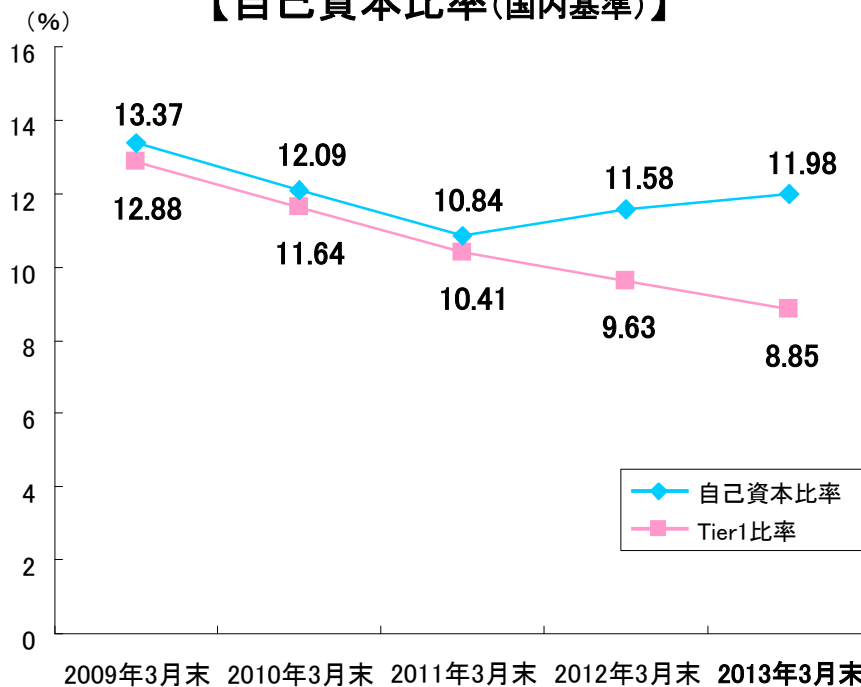
※時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳

# 自己資本比率・格付け情報

< 単体 >

- 自己資本比率は11.98%と、健全な水準を維持。
- 2013年2月にソニーフィナンシャルホールディングスより100億円の劣後調達を実施。

【自己資本比率(国内基準)】



【格付け(2013年3月末現在)】

スタンダード&プアーズ	
長期カウンターパーティー格付け「A」	アウトルック「安定的」
短期カウンターパーティー格付け「A-1」	
日本格付研究所	
長期優先債務格付け「AA-	見通し「安定的」

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。また、2011年度までは平成20年金融庁告示第79号を適用しており、2012年度以降は平成24年金融庁告示第56号を適用している。

# 営業経費の内訳・預金経費率の推移

<単体>

- 営業経費は、業容拡大に伴い人件費が増加したものの、前年度比ほぼ横ばい。
- 預金経費率は、地方銀行平均に比べ低い水準を維持。

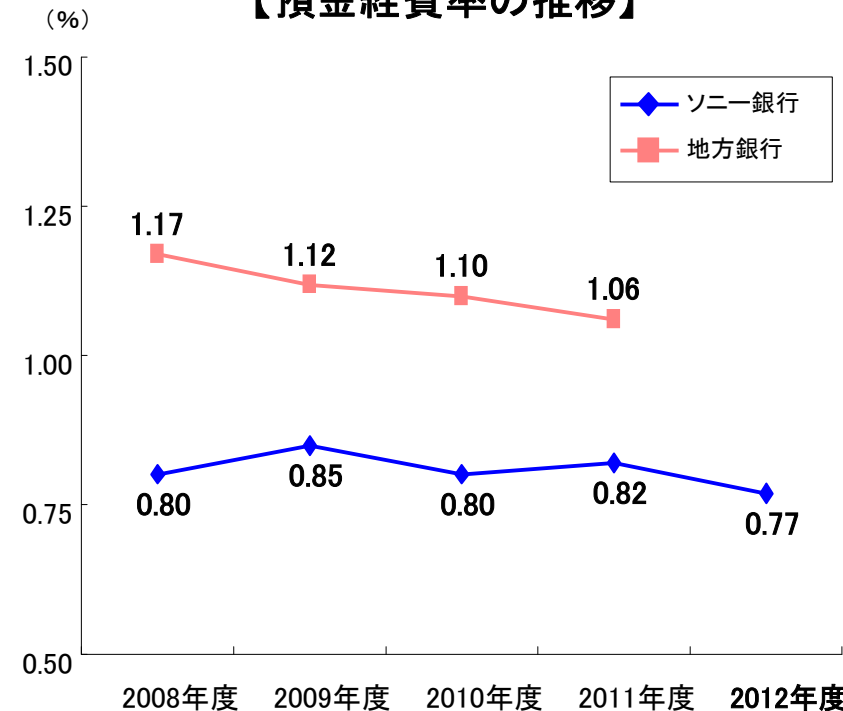
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

## 【営業経費の内訳】

	2011年度	2012年度	前年度比	
			増減	増減率
営業経費	138	139	+1	+1.1%
システム関連費用	48	47	▲1	▲2.2%
人件費	31	34	+3	+10.2%
広告宣伝費	8	7	▲0	▲10.3%

※システム関連費用は減価償却費、保守管理料など

## 【預金経費率の推移】



預金経費率・・・営業経費を預金等の期中平残で割った比率

※出所: 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」



## 2012年度の主なサービス拡充施策

### ● 外貨などへの分散投資をサポート

- ・外貨預金: 中国人民元(CNH)・南アフリカランド・スウェーデンクローナを追加(2012年10月)  
取り扱い全12通貨の為替手数料引き下げも実施(2012年12月)
- ・外国為替証拠金取引(FX): 取引手数料を無料化(2012年4月)
- ・投資信託: 海外資産の債券やREITなどに投資するファンドを追加(2012年7月・10月、2013年3月)
- ・金融商品仲介: マネックス証券株式会社との新しい金融商品仲介サービスを開始(2013年1月)

### ● 多様な住宅資金ニーズに対応

- ・中古マンション購入やリフォームへのニーズに一層対応するため、LIXILグループ(2012年7月)や東急リバブル株式会社(2013年1月)との提携住宅ローンを開始

### ● セキュリティやスマートフォンサービスを強化

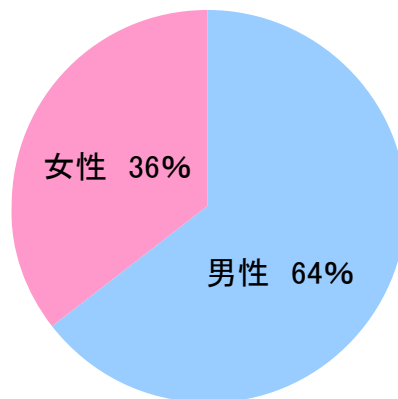
- ・新しいセキュリティサービスとして、ワンタイムパスワードを導入(2012年7月)
- ・スマートフォンからの口座開設申し込み(2013年2月)や外国為替証拠金取引(FX)(2013年3月)に対応

## 《ご参考》お客さまプロフィール(2013年3月末)

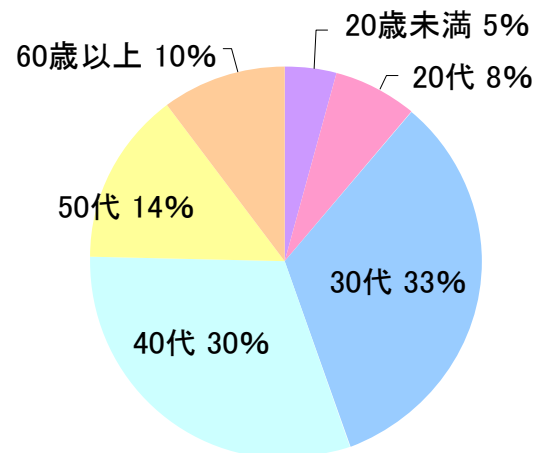
- 主なお客さまは、東京・大阪・名古屋の大都市圏を中心とした、30代～50代のビジネスパーソン。

割合は四捨五入で表示

【性別比】



【年代構成】



【地域分布】

